

(様式1)

## 職業実践力育成プログラム（B P）への申請について

申請日： 令和7年9月25日

①学校名：	鹿児島大学	大学（国立）	②所在地：	鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21-24	
③課程名：	教育DX実践リーダー育成講座				
④正規課程／ 履修証明プログラ	履修証明プログラム（短時間）	⑤定員：	40	⑥期間：	8カ月
⑦責任者：	教師教育開発センター長		⑧開設年月日：	令和8年7月1日（予定）	
⑨申請する課程 の目的・概要：	学校管理職・ミドルリーダーを対象に、単なるデジタル化ではなく学校経営・授業・校務のDXを戦略的に推進できる人材を育成する。ビジョン・組織マネジメント、ヒューマンセンタードな実装、データ/AI活用の3段階で構成し、実践知（自治体・学校・企業）と学術知の往還を通じて、現場で再現可能なDXモデルを設計・実装・評価できる能力を養成する。				
⑩10テーマへの該当	1 女性活躍	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護	9 起業
	2 地方創生	4 DX ○	6 就労支援	8 ビジネス等	10 防災危機管理
⑪履修資格：	大学に入学できる者又はこれと同等以上の学力を有する社会人（学校教職員・教育委員会職員等を主対象）				
⑫対象とする職業の種類：	学校等教員の管理職・主幹教諭・主任等ミドルリーダー、教育委員会担当者				
⑬身に付けることのできる能力：	（身に付けられる知識、技術、技能） 1) 学校DXにおける戦略立案および推進計画に関する知識・実践的スキル 2) 学校組織開発、教職員の人材育成および評価制度に関する実務的知識と技能 3) 情報セキュリティと学校における危機管理対応に関する実践的知識と対策技術 4) 教育データおよび生成AIの活用に関する設計・評価の知識と技術 5) 学校内外の多様なステークホルダー（教職員・保護者・地域・企業等）と協働するための実務的知識と調整技能 （得られる能力） 1) プレゼンテーション能力 2) 学校におけるICT・DX推進のためのプロジェクトマネジメント能力 3) 危機管理能力（情報セキュリティ・保護者対応なども含む） 4) 分析能力・論理的思考力（教育現場の課題を分析し、論理的に解決策を構築する能力） 5) 実務遂行能力および関係者との円滑なコミュニケーション能力				
⑭教育課程：	教育心理・教育経営・情報セキュリティ・AI／データサイエンス・デジタルファブリケーション・情報モラル・カリキュラム設計といった領域の第一線の研究者・実務家が登壇し、ベテランから新進気鋭までの多角的な視点を提供する。これにより受講者は、①最新の研究動向の把握、②学校・自治体における実装知、③大学・自治体・企業を横断するネットワークという三つの価値を同時に獲得できる。				
⑮修了要件（修了授業時数等）：	出席要件（原則80%以上）、各回課題（レポート等）、最終発表（4.4）および総合レポートの合格				
⑯修了時に付与される学位・資格等：	履修証明書				
⑰総授業時数：	60	時間	⑱要件該当 授業時数：	48	時間
			⑲要件該当授業時数 ／総授業時数：	80	%
⑲該当要件	企業等	○	双方向	○	実務家
			○	実地	

⑳成績評価の方法：	出席、課題（各回レポート・実践計画書）、最終発表、総合レポートの総合評価（シラバスに基準を明記）
㉑自己点検・評価の方法：	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。具体的には、全回の授業評価アンケート、学内委員会での点検、アドバイザーボード（学外委員含む）での評価・改善勧告を行い、自己点検・評価については本学HPにて公表する。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法：	修了直後・6か月後・1年後の追跡調査（DX施策実装状況・組織内波及・自己効力感等）を実施し、改善に反映する。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み：	（教育課程の編成） 教育課程編成・自己点検評価の双方に、企業・自治体を含む外部委員が継続参画（年2回以上）。株式会社LoiLO、東京書籍株式会社及び鹿児島市教育委員会等と協議体を設置（様式3別添）。
	（自己点検・評価） 企業・自治体を含む外部委員が継続参画（年2回以上）。株式会社LoiLO、東京書籍株式会社及び鹿児島市教育委員会等と協議体を設置（様式3別添）。
㉔社会人が受講しやすい工夫：	土曜開講、夏冬の集中対面ワークショップ、オンライン併用、長期計画の事前提示及びアーカイブ視聴（必要回に限る）等。
㉕ホームページ：	大学HP内の特設ページ（開講年度前に公開予定）